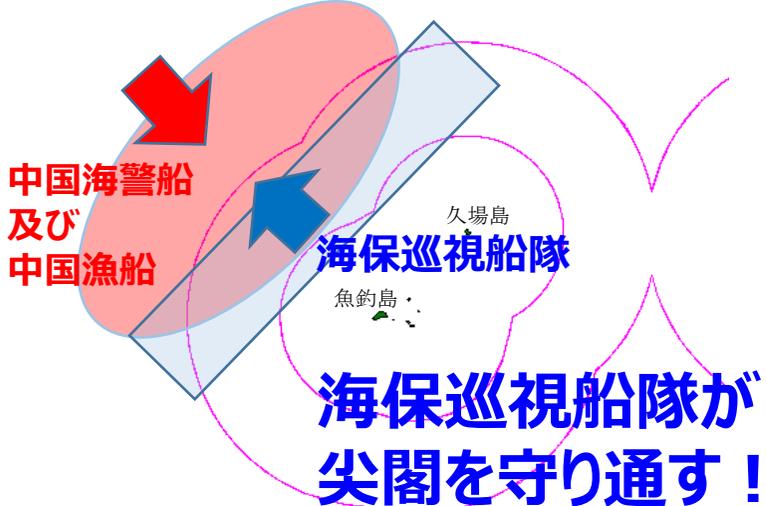


尖閣諸島周辺の警備の実態（平成28年8月の例）

中国海警船及び外国漁船のイメージ図



い集する中国漁船

【概要】

- 平成28年8月5日午後1時30分頃、中国漁船に続いて、中国海警船1隻が尖閣諸島周辺領海に侵入
- 多数の中国漁船が尖閣諸島周辺海域で操業するなかで、延べ28隻の中国海警船が我が国領海へ侵入（過去最多）

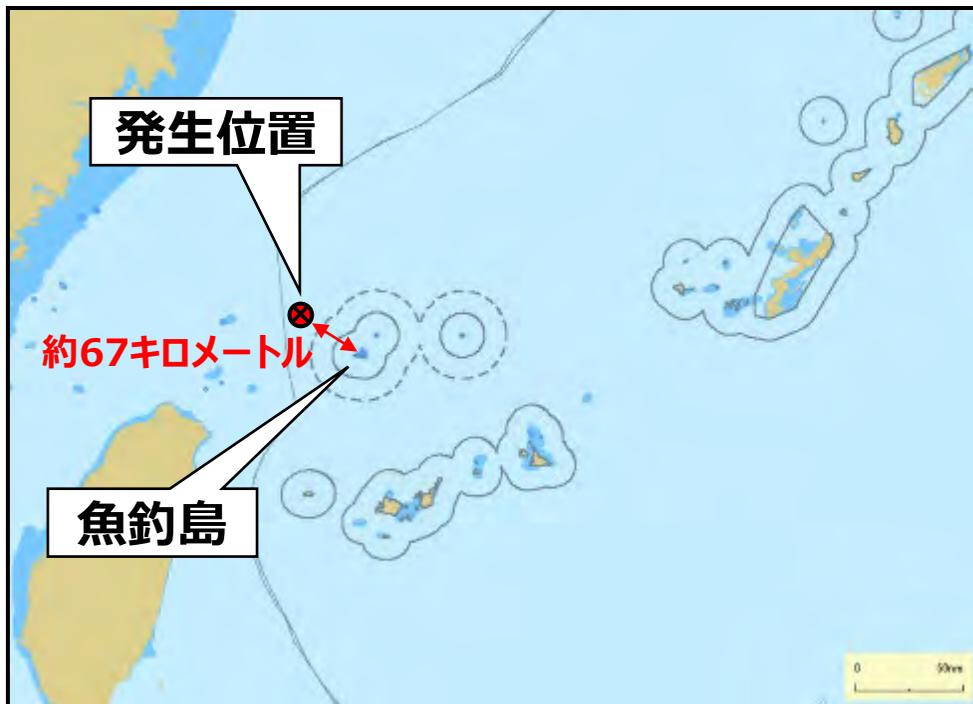


中国漁船・海警船に対応する巡視船

海上保安庁は、「冷静かつ毅然」と対応し、8月12日までに全船を領海外に退去させた

- ⇒全国から巡視船を集結させ、常に中国海警船を上回る勢力で対応
- ⇒中国海警船・漁船に退去警告、船体接触を避けつつ進路規制を継続実施～領海外に退去

中国漁船衝突海難救助（平成28年8月11日発生）



【概要】

- 平成28年8月11日、中国漁船が、魚釣島の北西約67キロメートルの公海上でギリシャ籍貨物船と衝突し、沈没
- 中国漁船乗組員 6名を海保巡視船が迅速救助
- 救助した6名を海保ヘリコプターにより、石垣島に搬送し、中国総領事側に引継ぎ
- 現場及び外交ルートにて、中国側から謝意が表明



ギリシャ籍貨物船



中国漁船



「断固として尖閣を守り抜く」「事態を軍事紛争にエスカレートさせない」という2つの目的を同時に果たしつつ、突発した海難救助まで迅速に完遂
⇒海保が「純然たる法執行機関」として完遂し得たミッション

海上保安庁の体制強化、海上自衛隊との連携の必要性

- 海上保安庁は「法の支配」の担い手として、海上安全保障上の抑止力としての機能を果たす
 - ⇒平時における「平和の盾」として、外国公船、いわゆる不審船、漁船等と最前線で対峙
 - ⇒我が国が強力に推進するFOIPの実行組織として機能
- 武力攻撃事態となった場合においても、自衛隊と緊密な連携を図りつつ対処
 - ⇒外国公船、偽装漁船への対処はもとより、我が国船舶の保護・避難誘導、離島住民の避難、緊急輸送、海難救助等の海上保安業務に従事

- ・力に屈しない、「強い法執行力」を維持強化する必要性
 - ⇒相手に付け入る隙を与えない海上保安体制強化は喫緊の課題
- ・自衛隊と連携して、我が国の総合的安全保障能力を向上させる必要性



巡視船の白い船体は、あらゆる事態を平和裏に解決するという強い意志の表れ！